

科目名	療養調整看護学特論 (Advanced nursing lecture on restoration of health)
授業形態	講義
標準履修年次	1・2年次
実施学期・曜時限等	春AB学期 月曜3・4時限
実施場所	共同利用棟B 206
単位数	2単位
担当教員名	日高紀久江 Hidaka Kikue 柴山 大賀 Shibayama Taiga 浅野 美礼 Asano Yoshihiro 阿部 吉樹 Abe Yoshiki 萩野谷浩美 Haginoya Hiromi
ティーチングフェロー(TF)・ ティーチングアシスタント(TA)	
オフィスアワー等	事前に確認し訪室すること
授業の到達目標 (学習成果)	療養生活をおくっている慢性疾患の管理やリハビリテーション等 が必要な患者や家族に向けた、療養生活を支援するために必要 な看護の知識ならびに技術について理解できる。
他の授業科目との関連	
履修条件	なし
授業概要	健康上の問題を有する成人・高齢者の看護に必要な理論や基本 概念、看護技術について学習する。看護の対象とその家族に関 する包括的なアセスメント、療養生活の環境調整、自己管理教 育・指導、生活の再構築について、科学的根拠に基づいた知識 や技術を教授する。
キーワード	慢性看護(Chronic Care Nursing)、リハビリテーション看護 (rehabilitation nursing)、健康の回復(restoration of health)、調 整(management)
授業計画	1(4/15)療養者を取り巻く看護的課題Ⅰ(日高) 2(4/15)療養者を取り巻く看護的課題Ⅱ(日高) 3(4/22)病態に応じたリハビリテーション看護(日高) 4(4/22)病態に応じたリハビリテーション看護(日高) 5(5/13)療養生活に関連する情報リテラシーⅠ(浅野) 6(5/13)療養生活に関連する情報リテラシーⅡ(浅野) 7(5/20)生体環境と生活環境の調整Ⅰ(浅野) 8(5/20)生体環境と生活環境の調整Ⅱ(浅野) 9(5/27)対象理解を深めるアセスメント技法Ⅰ(萩野谷) 10(5/27)対象理解を深めるアセスメント技法Ⅱ(萩野谷) 11(6/3)生体環境を整える看護技術とその評価Ⅰ(萩野谷) 12(6/3)生体環境を整える看護技術とその評価Ⅱ(萩野谷) 13(6/10)療養者の苦痛緩和に向けた看護支援Ⅰ(阿部) 14(6/10)療養者の苦痛緩和に向けた看護支援Ⅱ(阿部) 15(6/17)看護理論の療養者への応用Ⅰ(阿部) 16(6/17)看護理論の療養者への応用Ⅱ(阿部) 17(6/24)療養指導と自己管理支援Ⅰ(柴山) 18(6/24)療養指導と自己管理支援Ⅱ(柴山) 19(7/1)療養者のQOL評価Ⅰ(柴山) 20(7/1)療養者のQOL評価Ⅱ(柴山)
学修時間の割り当て及び授業 外における学修方法	主体的に学習する態度を身につけること。発表時には学習した発 表内容に適した発表方法について考慮し、人に分かりやすく伝え る術も学習してください。

成績評価方法	<p>評価方法と評価配分 発表と討論の内容(50%)、レポート(50%)</p> <p>評価基準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 慢性疾患やリハビリテーションを必要とする療養者の生活上の問題について理解し、看護的課題について自らの考えを述べるができる。</li> <li>2 療養者の情報リテラシーについて理解し説明することができる。</li> <li>3 療養者の生体環境に関連する要因と、その調整方法について説明できる。</li> <li>4 療養者が主体的に取り組む看護の支援方法について述べるができる。</li> <li>5 看護理論の看護実践への活用方法について理解できる。</li> <li>6 療養者のQOLについて考察し、その評価手法について説明できる。</li> <li>7 講義や発表内容について、科学的、論理的な視点からの討論により、研究をおこなうための自己の課題や方向性を提示できる。</li> </ol> <p>上記に対応した評価基準は以下のとおりである。</p> <p>A+ 上記1～7を自身で達成できる。</p> <p>A 上記1～7をほぼ自身で達成できる。</p> <p>B 上記1～7を教員の指導を受けながら達成できる。</p> <p>C 上記1～7を教員の指導を受けながら概ね達成できる。</p> <p>D 上記1～7を教員の指導のもとでも達成できない。</p>
教材・参考文献・配布資料等	適宜参考資料を提示する。
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	わからないことは、その場で質問し解決すること。